

自由応募分科会 5 ポスト・マハティール期のマレーシア政治 報告 1

中村正志（アジア経済研究所）

幻の二大政党制：変わる政党システム、変わらない UMNO のヘゲモニー

Failed two-coalitions system: A changing party system, unchanging UMNO's hegemony

2008 年 3 月に実施された第 12 回総選挙によって、マレーシアに国民戦線（BN）と人民連盟（PR）からなる二大政党制もしくは二大政党連合制が誕生したといわれた。独立以来半世紀も続いた一党優位制（あるいは覇権政党制）が崩れ、政党間の勢力配置が様変わりしたのであり、これこそポスト・マハティール期におけるもっとも重要な政治的変化だといっても過言ではない。ただし、二つの政党連合が並び立つ状況は長くは続かなかった。PR は 2015 年 6 月に瓦解し、その後は有力政治家による新党結成が相次いでいる。

一時は堅牢にみえた二大政党連合制が急速に不安定化したのはなぜか。この問いに取り組むにあたり、本報告ではまず、マハティール政権期から今日までの政党間勢力配置状況を把握する作業から始める。まず、単独で突出した勢力をもつ政党が存在しないマレーシアでは、合従連衡のあり方が政党システムを決定的に左右することを確認する。次いで、「1 から 2 へ」という数のうえでの変化と平行して、BN の内部では「UMNO のヘゲモニー下で非ブミプトラ政党も得票率と同程度の比率の閣僚ポストを得るシステム」から「実質的なブミプトラ政党連合」へという質的な変化が生じていたことを示す。

続いて、PR がいかなる環境のもとで誕生し、どのような活動を行い、いかにして瓦解したのかを整理する。PR 結成当時の政治状況を振り返り、基本政策を整理した後、PR がいかにして瓦解したのか、その過程を跡づける。一連の作業を通じて、2013 年総選挙によって生じた BN、PR 双方の内部における勢力配置の変化が、野党どうしを競わせることで自身の議席を守りたい UMNO と、政策的影響力を確保したい PAS のウラマー（宗教指導者）が与野党の垣根を越えて接近する事態を生みだし、二つの多民族政党連合からなる政党システムが不安定化させたことを示す。